

1月11日（火）、芦屋町のボランティア連絡協議会「芦屋町手をつなぐリボンの会」の役員研修で、糟屋郡志免町の障がい者福祉施設、柚の木福祉会「柚の木学園」を見学させて頂きました。

「地域とともにステップアップ」をテーマに、一人ひとりのお子さんに合わせて発達を促す乳幼児発達支援の「パワフルキッズ」、からケアホームの「カムカムホーム和」「BFクローバー」と幅広くライフステージに沿ってサポート出来るよう事業展開されています。

中でも、日本で始めて開設された小学校の空き教室を活用した作業所「ふれあいの部屋」には驚かせられました。たった2日で、福祉課と教育委員会の了承を得たそうです。

「ふれあいの部屋」では、総合学習や休み時間に来た子ども達への作業指導や、運動会に参加して交流する事で大人としての社会性や責任感の向上がみられ、自分の目標に対する自信へとつながっているそうです。私どもが見学させて頂いた時は牛乳パックからカードを作る作業をされていて、見学した者も指導を受けながら紙を漉き、ハートのカード等を作りました。指導する姿は、堂々とされていて自信に満ちていました。小学校の卒業生の中には「ふれあいの部屋」での交流をきっかけに福祉系の大学へ進学した方もいらっしゃるそうです。

学園内の作業所「きいちご」では、シュガーセットの箱詰め作業をされていました。素早い箱の組み立ての技、まさに熟練工。台紙の上にシュガーの数の線を引いて一つひとつ線の上にシュガーを置いて数を数えている姿……。純粋な気持ちにさせて頂きました。

姪浜にある知的・精神・身体など障がいに関係なく働け、こだわりの素材をプロのシェフの減塩レシピで提供する「レストランゆずのき」でお昼を頂きました。

北九州からわざわざ姪浜まで行きたくなる一品一品、きちんとした接客、ご近所に欲しいレストランでした。

柚の木福祉会では、一人ひとりに合わせた「支援」、プロの技術と自覚を持つスタッフとバリエーション豊かな「施設」・事業、「地域」の方々との相互理解を深める交流、本人の「自立」への意思、ハンディのある方や家族だけでなく、地域の方々やスタッフなど全ての方が人生を楽しく生きる「権利」の尊重、そうした福祉事業に関わりのある「家族」「支援」「ボランティア」「行政」「関係機関」「地域」「自立」「権利」「施設」すべての方々の力を結集した『幸せづくりの1枚の絵』の完成を願っているそうです。



＜濤懸はまゆう太鼓 中西 樹一＞